

おおさか洋画物語

2017年7月7日(金)ー7月19日(水)
8月1日(火)ー8月20日(日)



海景 松原三五郎
大正8年(1919) 本館蔵

大阪での本格的な洋画教育は、松原三五郎(1864-1946)の主宰した「天彩画塾」に始まります。松原が先駆者の一人

となって牽引した大阪洋画壇は、多彩な個性を生み出し、次世代へと継がれてゆきました。大阪近代を彩る洋画家たちの作品を中心に、その軌跡をふりかえります。

清涼をもとめて 夏の工芸

2017年7月7日(金)ー7月19日(水)
8月1日(火)ー8月20日(日)

龍泉窯の淡い青緑色の釉薬は世界中で珍重されました。ここでは龍泉窯をはじめとする高雅な中国青磁や透明感あふれる高麗青磁、水辺や魚をモチーフとした漆器などをあわせて展示いたします。夏の一日、目に涼やかな工芸品の数々をお楽しみください。



青磁貼花 牡丹唐草文瓶 龍泉窯
元時代・14世紀 兵庫・太山寺

中国の彫刻

2017年8月1日(火)ー10月1日(日)

本館蔵山口コレクション石造中国仏教・道教彫刻より、中国南北朝時代北魏の優品を中心とする数々をご覧ください。あわせて展示します遼時代の如来坐像や清時代の玄天上帝坐像など、唐時代以降の仏像・道教像もお見逃しなく。



石造 如来坐像 遼時代・11世紀
本館蔵(山口コレクション)

源氏絵

2017年9月2日(土)ー10月1日(日)

王朝文学の傑作『源氏物語』の中からさまざまな情景を選んで絵画化した「源氏絵」は、一千年近くにわたり連綿と描き継がれてきたやまと絵の一大ジャンルです。近世土佐派をめぐる特別陳列の開催にちなんで、香り高い源氏絵の世界をお届けします。

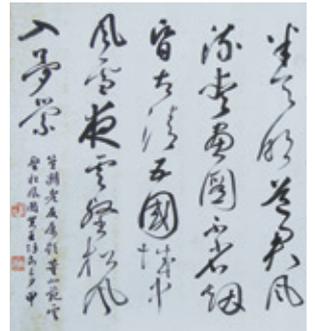


源氏物語図屏風(部分)
桃山時代・17世紀 本館蔵

長尾雨山の見た中国書画

2017年9月2日(土)ー10月1日(日)

漢学に造詣が深く、詩書画を善くした長尾雨山は、阿部房次郎の中国書画コレクション(現本館蔵)の形成にあたり、顧問的な役割を果たしました。中国在住時には呉昌碩らの文人と交流して、作品を応酬しました。雨山の旧蔵品や、過眼した作品、題跋、箱書などを展示します。



行書董源雲壑松風図跋 長尾雨山
昭和8年(1933)
本館蔵(阿部コレクション)

千花百果 —四季をめぐる中国書画

2017年9月2日(土)ー10月1日(日)

寒い冬を越えれば必ず暖かい春がやってきて、花が咲き実を結ぶ季節を迎えます。四季の花々や果実は古くから画題とされ、装飾的な美しさのみならず、吉祥の含意、ときに人格を象徴的に表すものでした。身近で親しみやすい花卉を中心とした作品をお楽しみいただけます。



四時果実図(四幅) 趙之謙
清・道光21年(1841) 本館蔵(阿部コレクション)

多彩なる隸書 —漢の石刻

2017年9月2日(土)ー10月1日(日)

約四世紀にまたがる漢代(前206~220)は、隸書が最も栄えた時代です。独特の波磔(はたく)といわれる右払いが特徴ですが、完成を見るのは後漢末、時とともに書体は変化しました。また書かれた地域や目的などの状況によって、その姿は多種多様な美しさを見せます。



楊淮表記
後漢・熹平2年(173)
本館蔵(師古齋コレクション)